

山形県 ICT活用4次元モデル1.0

山形県教育センター 調査・研究 令和3年度～令和4年度
「令和時代のスタンダードとしての学校ICT環境における児童生徒の学び」調査・研究より

本モデルの使用例

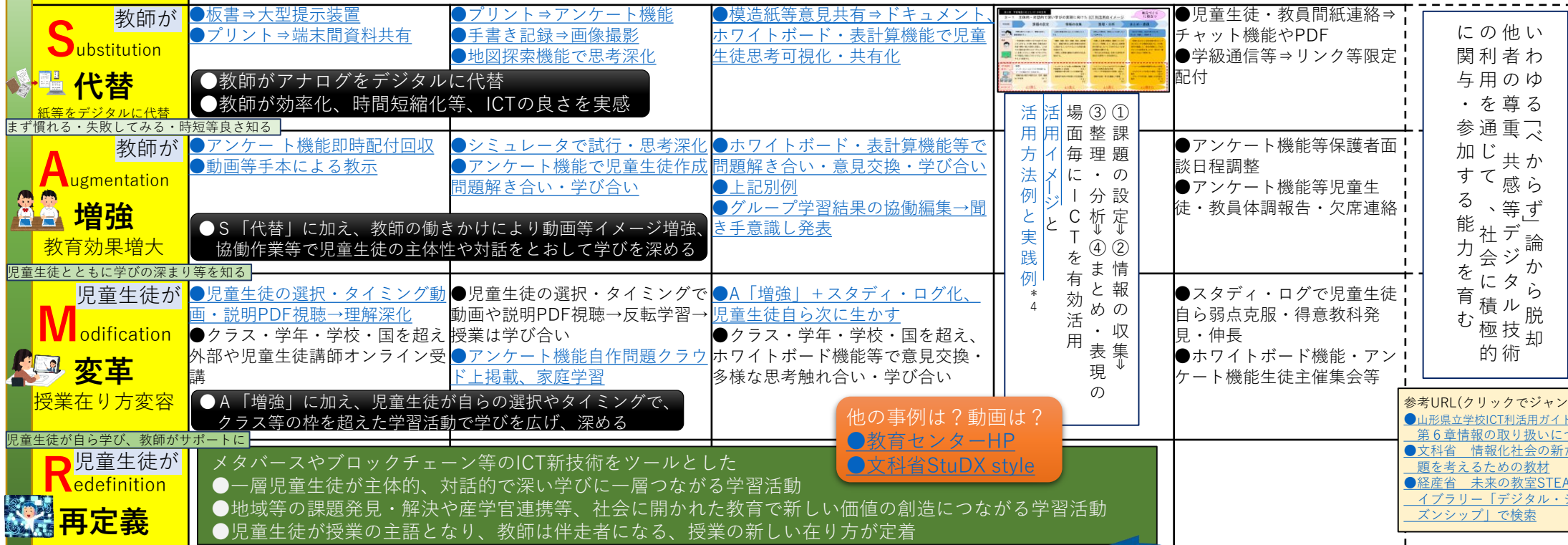
- ステップ1** ①ではICT活用場面を知り、②では自分のICT活用度を知り、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」＝「児童生徒が主語」となるような授業を作ってみては？
ステップ2 ③では①②にてICT活用のイメージや実践等ができれば、教科横断的なまとまりをもって体系的な情報活用能力育成につなげてみては？
ステップ3 ④ではICT活用のレベルアップや、情報活用能力育成レベルの見直しをタイミングごとの実施してみては？つまりカリ・マネです。

① 学校におけるICTを活用した場面^{*1}



②

ICT活用度 SAMRモデル^{*2}
(この基準は絶えずバージョンアップしていく2021・2022時点)



③

教科横断的ICT活用による情報活用能力育成
「学校ごと」や「教科ごと」や「教科を超えて」
情報活用能力の体系的な育成
教育センター参考データ集

④ ①～③を年度や学期等タイミングごとに見直し レベルアップやレベル再検討 カリ・マネ^{*3}

例えば教科▲▲情報活用能力ステップ表
例えば○学年情報活用能力ステップ表
例えば◇◇学校情報活用能力ステップ表

^{*1} 文部科学省「学びのイノベーション事業」実践研究報告書 2014 ^{*2} Ruben, R. Puentedura 2010 ^{*3} 文部科学省「学習の基盤となる資質・能力としての体系表例とカリキュラム・マネジメントモデルの活用情報活用能力の育成」 ^{*4} 山形県教育委員会、山形県教育センター「山形県立学校ICT活用ガイドライン」資料集 2022